

1 中学校外国語科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

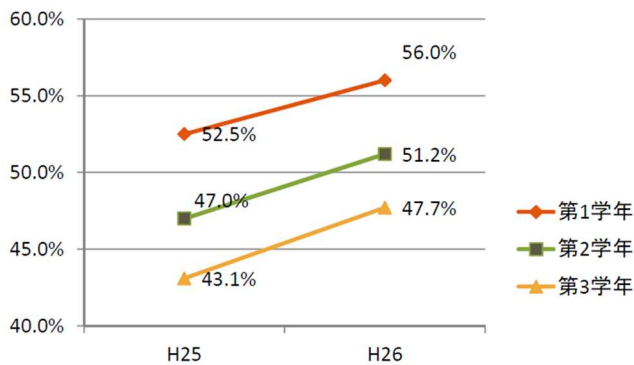
(1) グローバル社会で求められる力の育成

グローバル化する社会の中で、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、外国語で躊躇（ちゅうちょ）せず意見を述べ、他者と交流していくために必要な力や、我が国の伝統文化に関する深い理解、他文化への理解等をどのように育てていくのかについて、英語はもちろん、全教科で取り組むべきである。

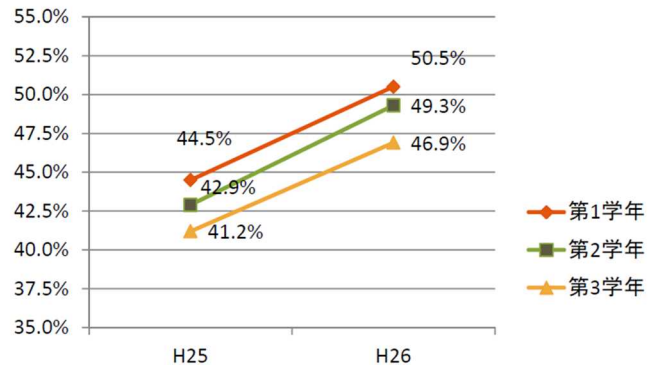
(2) 英語の使用率の向上

平成 25, 26 年度の英語教育実施状況調査（中学校）の結果より、授業に占める英語を用いた言語活動の時間の割合及び、英語担当教員の英語使用状況においてともに上がっている。これからも、小学校と高等学校を結ぶ重要な役割を担っている中学校として、英語に生徒が触れる機会を大事にした取組を行っていくことが重要である。

授業に占める英語を用いた言語活動の時間の割合



英語担当教員の英語使用状況



* 文部科学省ホームページより

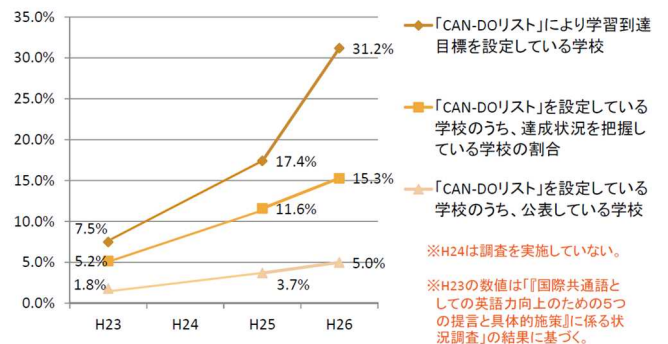
(3) 「CAN-DO リスト」による学習到達目標の設定

「CAN-DO リスト」による学習到達目標の設定は達成に向けて伸びている。一方、達成状況を把握している学校の割合が少ない状況にある。このことから、作成しているが活用されていない現状がうかがえる。これからはその活用にもしっかりと目を向けていかなければならない段階にある。

「CAN-DO リスト」は英語指導の水先案内人ともいえるべき存在であり、きちんと見通しを持った授業をするために必要である。

「CAN-DO リスト」の作成に当たっては、CEFR の A1 を目安として各学校がその実態や状況に合わせて設定することが一つの目安となる。

「CAN-DO リスト」による学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握



* 文部科学省ホームページより

* CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠（文部科学省参考資料より）

CEFR は「共通参照レベル」として、言語能力を A1, A2 レベル（基礎段階の言語使用者）、B1, B2（自立した言語使用者）、C1, C2（熟達した言語使用者）の 6 段階に分け、「聞くこと」、「読むこと」、(以上 2 つは「理解すること）」、「やり取り」、「表現」、(以上 2 つは「話すこと）」、「書くこと」の 5 つの能力カテゴリーに分けて言語活動の内容を表している。

A1 Basic User	<p>Can understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases aimed at the satisfaction of needs of a concrete type.</p> <p>Can introduce him/herself and others and can ask and answer questions about personal details such as where he/she lives, people he/she knows and things he/she has.</p> <p>Can interact in a simple way provided the other person talks slowly and clearly and is prepared to help.</p>
---------------------	--

(4) 英語教育改革（生徒の英語力向上推進プラン）

- ① 生徒の英語力に係る国の目標を踏まえた都道府県ごとの目標・公表を要請
- ② 「英語教育実施状況調査」に基づく都道府県別の生徒の英語力の結果の公表
- ③ 義務教育段階の中学校については、英語4技能を測定する「全国的な学力調査」を国が新たに実施することで英語力を把握
- ④ 中・高・大での英語力評価及び入学選抜における英語の4技能を測定する民間の資格・検定試験の活用を引き続き促進

2 中学校での授業改善に向けて

(1) 現行教育課程における課題

- ① 単元で身に付けたい力を CAN-DO の視点から明確に設定しているか
- ② 実際のコミュニケーションの場面を設定した言語活動を展開しているか
- ③ その場で考えながら話すように言語活動を工夫しているか
- ④ 教科書本文やその内容を言語活動の中で活用しているか

(2) 教員に求められる力

① 単元構想力

英語は一週間当たりの授業時数が一番多い教科となった。教科の目標を明確に捉え、増えた授業時数を効果的に生かすことが重要である。言語材料の習得に終始するようになってはならない。そこで、教師には単元構想力が求められる。教師は、この単元の終わりにどのようなことができる生徒になってほしいのかを明確にし、段階的に生徒に力を身に付けることができるよう見通しを持った計画のもと授業を進めることが重要である。評価についても、単元のどの場面で評価するのかを考える必要がある。

② 活用する力を育成する場を設定する力

現行学習指導要領に「実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行う」とある。言語材料の習得に終始することなく、それを活用する力を身に付けさせたい。そのためには、言語活動を充実させることが必要であり、実施するにあたっては、ある程度詳細な状況を設定することが重要である。例えば、紹介をする時には、誰に向かって行うのか、相手や自分の立場等を明確にすることである。

③ 英語で行うことを基本とした授業を作る力

英語で行う授業を考えると次のことに留意する必要がある。

- ・ 生徒が英語に触れる機会を多くすること
- ・ 授業を実際のコミュニケーションの場とすること
- ・ 生徒の理解に応じた英語を使うこと

教師は、上記のことを踏まえた指導ができる、良きファシリテーターになることが求められる。

3 その他

英語教員の英語力向上のため、各試験団体による一定期間の特別受験制度が提供されている。
 実施団体：実用英語技能検定1級及び準1級、IELTS、ケンブリッジ英検、TOEFL(iBT)、TOEIC
 公開テスト、GTEC CTE等